

令和3年度第2回蒲郡市総合教育会議 会議録（要旨）

開催日時	令和3年11月26日（金）午後1時30分から午後4時まで
開催場所	蒲郡市役所5階 庁議室
出席者	<p>蒲郡市長 鈴木 寿明</p> <p>蒲郡市教育委員会 教育長 壁谷 幹朗 教育長職務代理者 渡辺 充江 委員 石渡 篤史 委員 水藤 頼利 委員 稲葉 千穂子</p> <p>【オブザーバー】 企画部 部長 大森 康弘 総務部 部長 平野 敦義</p> <p>【説明者】 教育委員会教育部長 嶋田 丈裕 教育委員会庶務課長 柴田 剛広 教育委員会生涯学習課長 三浦 次七郎 教育委員会生涯学習課 生命の海科学館館長 山中 敦子 教育委員会博物館副主幹 小田 美紀 教育委員会教育政策推進室主幹 清水 恵美 教育委員会教育政策推進室主事 大森 俊明 企画部企画政策課長 成瀬 貴章</p> <p>【事務局】 企画部企画政策課長補佐 伊藤 次郎 企画部企画政策課主事 大桑 智子</p>
議事	<p>1 社会教育4施設（図書館、市民会館、生命の海科学館、博物館）のあり方の検討状況について（報告）</p> <p>2 生涯学習推進計画策定状況について（報告）</p> <p>3 特別支援教育の調査検討状況について（報告）</p> <p>4 教育大綱の改定について（意見交換）</p>
会議資料	<p>1 社会教育4施設のあり方（案）</p> <p>2 蒲郡市生涯学習推進計画2022（概要版・素案）</p> <p>3 特別支援教育の調査検討状況について</p> <p>4 教育大綱の改定及び教育振興基本計画の策定について</p>
会議内容	<p>1 社会教育4施設（図書館、市民会館、生命の海科学館、博物館）のあり方の検討状況について</p> <p>【説明者：教育部長、庶務課長、生涯学習課長、生命の海科学館館長、博物館副主幹】</p> <p>施設ごとに現状と課題及び市民ニーズを踏まえた将来ビジョン（案）を報告した。</p> <p>【質疑・意見】</p> <p>・将来ビジョンについて、期限を設けないのか。</p>

- ⇒将来ビジョンは、あくまで将来の整備の方向性を示すものである。具体的な整備計画の位置づけではないため、期限は設定してない。
- また、今年度、市の公共施設マネジメント実施計画の更新作業を進めており、そちらに今回の内容が盛り込まれていく予定である。
(教育委員会)
- ・現在の施設規模や駐車場の課題はここ数年の問題であり、ICTやネット環境の普及により、今後施設利用の仕方が加速度的に変わっていくことを懸念している。
 - ・自宅でも職場でない第3の場所(サードプレイス)として必要。世代・立場を越えて集まれる場所となしてほしい。
 - ・若い世代の貸し出し状況の低下が挙げられたが、見る媒体の変化が影響していると思うので、電子書籍の充実に取り組んでいただきたい。
 - ・時代変化を踏まえ、施設に行かないとできないことがあるなど特徴ある施設を作っていただきたい。
 - ・市民ニーズや課題を踏まえて、将来ビジョン作成いただいているので、今後市民と共有する機会をしっかりと設けてほしい。
 - ・市民と共有しながら考え、実行することが一番肝要である。時代の変化やニーズの変化を適宜とらえて、しかるべき時に期待に応えられる公共施設のあり方を実現していきたい。(市長)

2 生涯学習推進計画策定状況について

【説明者：生涯学習課長】

蒲郡市生涯学習推進計画の概要について説明

3 特別支援教育の調査検討状況について

【説明者：教育部長】

蒲郡市の特別支援教育の現状と課題について説明

【質疑・意見】

- ・蒲郡市特別支援学校を設置することは難しいのか。
⇒市としては総合的な支援学校の設置を要望している。設置義務者である愛知県へ要望は出すが、ハードルが非常に高い。そのため最低でも分校・分教室を設置いただけるよう働きかけをしていく。豊川特別支援学校の分教室として支援を受けられるようになれば、蒲郡市の各小中学校の特別支援学級への指導や相談を受けてもらえるハブ的な役割も期待できる。(教育委員会)
- ・一人ひとりの異なる状況を理解し、適切な指導や支援をすることに加えて、配慮してある施設・設備が必要である。市内に特別支援学校があればそちらに通わせたいという意向もあると思われるので、ぜひ実現していただきたい。
- ・対応しきれない場合もあるが、みんなが同じ場所で学ぶことは大変大事なことだと思う。子どもたちだけでなく、保護者や周囲の市民の方たちにも理解が広がると考える。
- ・通常の子どもが近くの学校へ行き、支援の必要な子どもが遠くの学校へ行っているという現状に大変強い問題意識を持っている。こういった現状の中で、子どもたちのためにできることを考え、分校・分教室

	<p>の設置に向けて活動していきたい。(教育長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出来る限り早い実現を期待されていると思うので、県に対し、市としてしっかり戦略を練りながら訴えていきたい。(市長) <p>4 教育大綱について</p> <p>【説明者：企画政策課長、教育部長】 蒲郡市教育大綱の改定及び教育振興基本計画の策定について説明</p> <p>【質疑・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育大綱の教育指針の項目について、一部の表現が努力目標のような言い回しになっているが、どういう違いがあるのか。 ⇒第四次総合計画より引用されており、意味合いとして大きな違いはなく、あくまで表現的な違いであると考えてる。 ・現在、蒲郡市教育大綱があり、新たに蒲郡市教育振興基本計画を策定して一つにするということだが、基本理念と基本目標は同じものとなり、教育大綱でいう教育指針以降が変わるということか。 ⇒教育大綱は、教育振興基本計画の基本方針や基本目標と同じような位置付けとなります。教育大綱と教育振興基本計画が整合性のとれたものにするには、基本理念と基本方針はベクトルを同じ方向に合わせる必要があるため、一緒にすることが合理的であると考えてる。ただし、一緒にするには本会議にて認められる必要がある。(教育委員会) ・教育ビジョンの位置づけはどうか。 ⇒教育振興基本計画がなかったため、総合計画に基づき、学校教育ビジョンを作成していた。教育振興基本計画を策定すれば、教育ビジョンの役割は、そちらが果たしていくこととなる。(教育委員会)
--	---